平成 22 年度　草の根文化無償資金協力
アンコール文化遺産教育センター開所式典
黒木　雅文　特命全権大使　スピーチ
2011 年 12 月 14 日（水）　於：バンテアイ・クデイ遺跡内

アプサラ機構事務局長　ブン・ナリット様、
上智大学アジア人材養成研究センター所長　石澤　良昭様、
ご列席の皆様、

本日は、アプサラ機構事務局長ブン・ナリット閣下ご臨席の下、アンコール文化遺産教育センター開所式典に出席し、皆様と共にお祝いできることを大変嬉しく思います。

我が国は、1992 年にユネスコ世界遺産条約に加盟する以前から、世界各地の貴重な文化遺産の保存修復活動に積極的な協力を行ってきております。アンコール遺跡については、1993 年に採択された「東京宣言」を基にＩＣＣ（アンコール遺跡保存開発国際調整委員会）を設立し、我が国とフランスが共同議長となり、関係国の協力の下で様々な問題を解決してきております。昨日まで開催されていた本年のＩＣＣ全体会合においても、今後の遺跡保存のあり方、保存と開発の調和等につき関係各国と有意義な議論を行いました。

また、石澤教授はじめ上智大学におかれましては、我が国におけるアンコール研究の先駆的な役割を担い続けてきておられ、アンコール・ワット西参道修復やバンテアイ・クデイにおける 274 体の仏像の発掘など学術的にも重要な成果を残されております。

今般、日本政府の草の根文化無償資金協力を通じて建設されたアンコール文化遺産教育センターは、情報パネルの展示や遺跡関連映像の上映を通じて、アンコール遺跡周辺の住民や学生に対して文化遺産教育を行うために活用されます。また、遺跡を訪れる国内外の観光客に、遺跡保存の重要性やそのための日本の支援等について知識を深めてもらう場ともなります。さらに、併せて供与した測量機材

により、カンボジア人若手専門家に対して体系的な測量技術の研修を実施することで、遺跡保存・修復にかかる能力向上の機会を提供します。

　アンコール文化遺産教育センターの活動を通じて、世界遺産であるアンコール遺跡の保存の重要性に対する観光客及び住民自身の意識が高まるとともに、現地の人材によって遺跡調査・修復活動が継続されていくことを願っております。そして、アジアの至宝と謳われるアンコール遺跡が、カンボジア人自身の手により後世に末永く受け継がれていくことを期待しております。

　最後に、上智大学アジア人材養成研究センターをはじめ、本プロジェクト実施にご尽力いただきました関係者の皆様に感謝の意を申し上げます。また、上智大学アジア人材養成研究センターの活動が、カンボジアと日本の更なる友好促進につながることを願って、私のスピーチとさせていただきます。

　ご静聴ありがとうございました。